

青丘文庫研究会月報

No.270
2013年11月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
 ①在日朝鮮人運動史研究会関西部会 (代表・飛田雄一)
 ②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
 郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000円
 ※ 他に、青丘文庫に寄付する図書の購入費として 2000円／年をお願いします。

<巻頭エッセイ>

留学生用講義の経験（韓国人留学生との対話） 梶居佳広



昨年（2012年）後期、立命館大学において「（留学生科目）日本の政治」を担当した。この科目は文字通り留学生を対象に日本の諸事情を講義する科目の一つであり、この科目を斡旋する法学部では「歴史の人間」とみられている私に本來回るような仕事ではない。にもかかわらず、いかなる事情からか、昨年度は私が担当することとなった。

事務方からの資料によると、立命館大学に留学する学生は中国・台湾と韓国からが大半であり、「日本の政治」の受講生は平均30名、ただし平均を大幅に上回ることも想定されたので大きめの教室が用意された。ところが実際に開講すると（第1回目の講義で天安門事件に言及したことが一因かもしれないが）、受講生はたったの15名、しかもケベック出身のカナダ国籍と中国国籍各1名を除く13名が韓国からの留学生という構成になってしまった。

実際の講義は「日本の政治」と称している以上、選挙制度や政党、議会、行政、地方制度、マスメディアなど日本政治の諸分野に関する説明が中心であった。ただ、私が歴史専攻である以上、どうしても現状分析より歴史的背景について話すことが多くなり、韓国からの留学生が大半の受講生も（もちろん時事的なテーマに関する質問も多いものの）歴史を背景にしたネタに関する意見・質問が増えるようになった（なお受講生からの質問は講義中随時受け付けていた）。私の在学時の留学生のような「日本がいつ攻めてくるのか」と真剣に心配する意見はなかったものの、総選挙で復活した自民党政権の性格や日本メディアの東アジア報道、嫌韓論の高まりを受け日本政治の右傾化・保守化についての質問が目立った。さらには日本におけるファシズムの形成・復活に関する意見も出てきたが、こうなると普段は（少なくとも日本人学生の間では）「左寄り」の見解の持ち主とみられている私がむしろ日本の「事情説明」をする破目になり、正直なんとも複雑な心境になってしまった。

とはいっても、留学生は学生運動が盛んだった頃の学生と比べると遙かに「冷めている」というか現実政治に強い関心を持っているように感じなかった。「日帝支配」についても（日本では反日教育云々がよく報道されるものの）糾弾一辺倒とは無縁。ただ彼らからみても、現在の日本の有権者は政治や社会に関する問題について自分から解決をめざす行動を起こさずに既成事実を追認する態度をとり、客観的に考えると現在・将来の自分に不利な状況をもたらす可能性の高い選択を無自覚・無関心なまま取っているように感じたことは間違いない。最終試験の答案をみても、私が普段接する日本人学生以上に、なぜ日本人は「考え、行動しないのか」がより大きな問題のように考える（そして政治制度自体にはそれなりに好意的な）答案が多かった。この点、曲がりなりにも「自力で民主主義を勝ち取った国」と「負け取つ

た=与えられた国」の違いが如実に現れたのかもしれない。

最後に、学生が回答した「授業に関するアンケート」の結果は、私が今まで担当した講義の中で一番高い評価であったこと、一方最終試験を受験した学生全員が合格しそのうちの半数以上がA評価であったことを付け加えておきたい。恐らく立命館大学でこの科目を担当することは二度とないように思うが、私にとって普段の講義より「本音」を語ることができ、韓国からの留学生さんと「おしゃべり」ができたことはとてもいい体験であった。

第342回在日朝鮮人運動史研究会関西部会（2013年7月14日）

戦後神戸における都市環境形成に関する史的研究 —三宮国際マーケットを事例として

村上 しほり

戦災復興期を生きた人びとのダイナミズムを描いた歴史については、不明点が多く、しばしば概括・歪曲されがちである。都市は、さまざまな文化的要因に左右される主体がなす集団によって構成されており、そのポリティクスの展開によってつねに規定されるが、物質的な構成要素の変容が行政によって正史として記されるのが常である。空間の再構築過程に関与した多様な集団・人びとの殆どは〈無名〉であって正史には登場しないが、戦災復興期という時代を含めて都市を捉えなおすうえでは、環境形成主体の複数性や、行政やGHQとの関係性の変容過程、つまり社会的諸関係の再構築過程こそが重要と言えよう。



そこで、本研究では、新聞地方紙や雑誌等の文献・映像史料の悉皆的な調査と当事者への聞き取り調査を通して、これまで史料不足として概括してきた、戦災復興期の神戸の都市史に迫ることを目指してきた。また、すでに捨象されてきた記憶や記録の再発掘と正史の記述を照らし合わせたうえで、人びとの生活風景や心性構造を描きだす視点からの歴史叙述を心がけるものである。

朝鮮系移民の戦中戦後は激動であった。1910年の日韓併合後、1920年から1930年代には、第一次世界大戦後の日本の急速な産業化に伴って朝鮮人移民労働者が増加した。渡航タイプは、当初は単身男性の出稼ぎ型であったものが、举家離村型へと変わり、1930年代からは定着化していく。1945年の第二次世界大戦終戦後は、終戦時に日本で生活を営んでいた朝鮮人が生活基盤を構築していくとされるが、その実態については不明な点も多く、誇張した言説も見受けられる。

本研究発表では、戦災都市である神戸における、戦後の都市中心部に現れたヤミ市に始まる生活再建の諸相を明らかにする一環として、在日朝鮮人の集団によって三宮東地区に建設された新興商店街である「三宮国際マーケット」の実態と歴史的経緯を解明した。

戦後神戸市に現れたヤミ市のなかでも「二大街頭市場」と並び称された三宮と新開地のうち、戦前の商業集積のなかつた三宮では、在留外国人組織の統括によって複数の新興商店街が形成された。1945年9月から1946年7月まで、三宮地域のヤミ市「三宮自由市場」をめぐる行政と商人群による度重なるせめぎ合いが繰り広げられたが、県市による対処的なヤミ市取締りは効果を発せず、実質的には無秩序の様相を呈していた。1946年8月から9月にかけては、県令「露店営業取締規則」によってヤミ市を含む露店営業への取締りや罰則の成文化が図られ、進駐軍の指示に基づいた大規模な店舗移転も行われた。これに際しては、複数集団が拮抗するなかでも、三宮自由市場において朝鮮人連盟所属商人によって1945年12月という早期に結成された「朝鮮人自由商人連合会」がイニシアチブを發揮した。同組織が進駐軍・兵庫県警・神戸市との積極的な折衝を経て、三宮東地区的土地所有者とのあいだに借地契約を結んで集団移転先を確保し、三宮国際マーケットを建設するに至った経緯からは、一連のヤミ市取締りを好機とした適応力を見てとることができた。

第6回 在日朝鮮人運動史研究会日・韓合同研究会

2013年8月3日（土）～8月4日（日）、成功裏に開催されました。初日は、大阪経済法科大学・東京麻布台セミナーハウスを会場に開かれ、以下の報告がありました。

1. 金哲秀（キム・チョルス）氏「朝鮮大学校朝鮮問題研究センター附属在日朝鮮人関係資料室の所蔵資料について」（朝鮮大学校朝鮮問題研究センター付属 在日朝鮮人関係資料室室長）
2. 川口祥子氏「布施辰治と朝鮮人」（大阪大学大学院言語文化研究科 研究生）
3. 鄭惠瓊（チョン・ヘギョン）氏「日帝末期の朝鮮人労務者供託金資料の微視的分析」（日帝強制動員&平和研究会 研究委員）
4. 吳日煥（オ・イルファン）氏「韓日会談における未収金問題－請求権の議論を中心に」（対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会）



川口祥子さんの発表です



懇親会です

夜は、同セミナーハウスで恒例の懇親会が開かれました。

2日目は、フィールドワークで川崎でした。詳細は、『むくげ通信』260号、2013.9、飛田レポートをご覧ください。<http://ksyc.jp/mukuge/260/260hida-kawasakiFW.pdf>

在日朝鮮人運動史研究会編

『在日朝鮮人運動史研究』 43号 2013.10 B5 211頁 緑蔭書房 2520円

～目次～

戦前期の大坂の朝鮮人と選挙

—4回の総選挙に立候補した李善洪を中心に 塚崎正之

民戦から朝鮮総連へ一路線転換の歩み 尹健次

戦後日本社会における朝鮮人生活保護受給「問題」の形成に関する一考察

—朝連強制解散～朝鮮戦争下における朝鮮人生活保護受給者の動向から 金耿昊

在日コリアン高齢者一世と介護

—特別養護老人ホーム「故郷の家・京都」における介護サービスの現状 西田知床

共に生きるコリアンな街づくり—川崎「おおひん地区」の地域的文脈 橋本みゆき

二〇一三年八月の東京踏査紀行文 鄭喜允

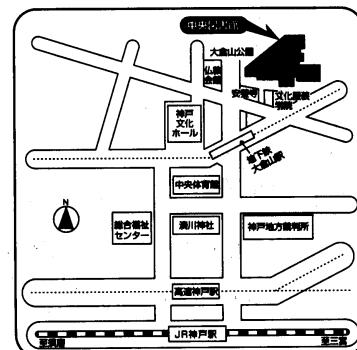
《資料紹介》金天海 自伝的記録（草稿） 樋口洋一

会の記録（二〇一二・九～二〇一三・七）

※特価2000円で販売します。購入希望者は、下記郵便振替に送料160円とも2160円を送金ください。郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>

●青丘文庫研究会のご案内●

■朝鮮近現代史研究会はお休みです
 ■第345回在日朝鮮人運動史研究会関西部会
 2013年11月10日（日）午後3～5時
 「民族差別と闘う連絡協議会（民闘連）運動の歴史」
 仲原 良二
 ※参加費、コピ一代 100円
 ※会場 神戸市立中央図書館内
 青丘文庫 TEL 078-371-3351



【今後の研究会の予定】

■第291回在日朝鮮人運動史研究会関西部会
 2013年12月8日（日）午後1～5時
 <2本のドキュメンタリー映画の上映です。会場注意！！>
 (1) 「世界人民に告ぐ！」1977／日本語／カラー／16mm／92分
 朴軍事政権下の在日韓国人政治犯問題を金大中事件を絡めて描く記録映画。
 監督・岡本愛彦 撮影・高岩仁 出演・在日韓国人「政治犯」家族関係者
 (2) 「金大中事件・告発 一国民法廷の記録一」
 1978／日本語／カラー／16mm／約92分
 金大中事件の告発映画。
 総指揮・山本薩夫 構成、監督・橘祐典
 ※会場 神戸映画資料館 <http://kobe-eiga.net/>
 神戸市長田区腕塚町5丁目5番1 アスタクにつか1番館北棟2F 201
 TEL 078-754-8039 (FAX 兼) **※会場注意！**
 ※参加費=会場費 1000円
 ※神戸市立中央図書館耐震補強工事のため12月、1月、2月、3月は青丘文庫を使用できません。12月は神戸映画資料館、1月～3月は神戸学生青年センターで開催します。
 ■2014年1月以降の予定です。1月12日（日）、在日（高野昭雄）、近現代史（梶居佳広）、2月9日（日）、在日（渡辺さえ）、近現代史（李景珉）。報告希望者は、飛田または水野までご連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】

12月号以降は、中川健一、黒川伊織、砂上昌一、三宅美千子、佐野通夫、吉川絢子、安致源、伊地知紀子、太田修、高正子、坂本悠一、全淑美、足立龍枝、渡辺さえ、池貞姫、張允植、横山篤夫、松田利彦、西村寿美子、玄善允、川口祥子。よろしくお願ひします。締め切りは前月の10日です。

【編集後記】

- 猛暑も終わりました。ほんとにひどい暑さでした。今年は寒い冬になるとの予報もあります。いずれにしても異常気象ですね。
 - 9月号、10月号の月報は休刊にさせていただきました。9月の第343回在日朝鮮人運動史研究会関西部会は、9月8日（日）、「戦前期の大坂の朝鮮人と選挙」塙崎昌之。10月は、第344回在日朝鮮人運動史研究会関西部会、10月13日（日）「1950～60年代の神戸湊川の朝鮮人集落、そして、“神戸在日外国人保護者会”のこと」金信鏞でした。